



こまき民主市議団行政調査報告書

令和 7 年 5 月 26 日

小牧市議会

議長 小島倫明 様

小牧市議会こまき民主市議団

代表 谷田貝将典

下記の通り行政調査を行いましたので、小牧市議会会議規則 108 条の規定により、その結果を報告します。

記

1 調査日

令和 7 年 5 月 22 日 (木) ～ 5 月 23 日 (金)

2 調査先及び調査項目

(1) 長野県 軽井沢町

1. 軽井沢町の DX 推進について

(2) 群馬県 大泉町

1. 多文化共生のまちづくりについて

2. マイナンバー制度について

3 参加議員

谷田貝将典、小川真由美、小沢国大、諸岡英実

4 調査内容

別紙のとおり

軽井沢町の DX 推進について

① 2025 年 5 月 22 日木曜日

② 軽井沢町役場にて
情報推進課見学

③ 軽井沢町副町長小林信嗣 軽井沢町議会議長川島さゆり 軽井沢町役場
情報推進課課長中山茂 軽井沢町情報推進課 DX 推進係係長小林美智子
軽井沢町 CDO 補佐官光谷毅彦

④ 軽井沢町の DX 推進について

⑤ 軽井沢町では、2024 年 6 月 20 日に、軽井沢町長肝煎りで、軽井沢町 DX
推進宣言を制定され、「軽井沢町に関わる方の満足度・幸福度の向上を
目的に新たなデジタル技術と従来の伝統的な手法のベストミックスと
いう考え方をもって人にやさしい DX の推進に取り組むことを宣言しま
す。」とあり、小牧市も DX に力を入れている為、選定した。

⑥ ⑦軽井沢町ではデジタルを手段として活用するための DX 推進 5 カ条を
下記のように示している。

1. 利用者目線 提供者の視点ではなく、利用者のニーズに即した「DX」を
推進します。

2. 合理的配慮の提供 情報保障や意思疎通への配慮として、「DX」を推進し
ます。

3. 業務改革 既存業務プロセスを根本的に見直し、効率的かつ効果的な改
善を行うために「DX」を推進します。

4. 人材育成 デジタル人材として職員を育成し、全庁的に「DX」を推進しま
す。

5. 安心・安全 個人情報の保護やサイバーセキュリティの確保を最優先に「DX」を推進します。

宣言を打ち出すことで、DXの重要性を町民へ周知するとともに、必ず成功させるという意気込みを感じた。

「軽井沢町は住民の満足度・幸福度の向上を目的にデジタル技術を基盤としたまちづくりを進めていきます。利用者の視点に立ち、デジタル技術と従来手段の融合により利用者一人ひとりが状況に応じたサービスを選ぶことができる、人にやさしいデジタル化を目指し「行政サービスのDX」、「行政運営のDX」、「データ利活用」を推進の柱とし、「どこでも」「だれでも」「いつでも」「かんたん」な住民サービスの実現を目指します。」とされており、町民がより利用しやすく便利になることで、住民サービスや幸福度を上げる、ここがキーとなっていた。

予算は7000万程、まず、1番DXを動かすためには、専門家を導入することがポイントで、民間〔SoftBank〕より、専門家に来て頂き、CDOとして委員職員をまとめ、民間知識を導入し活躍してもらっている。

本計画の期間は、2024年度から2028年度までの5年間としている。なお、軽井沢町を取り巻く環境の変化やデジタル技術の進化、国および県の動向などを踏まえ、柔軟に対応させていくため必要に応じて計画の見直し、更新を行うとし、推進体制としては、限られた予算の中、組織の壁を越えて、全体最適化の見地から住民と行政の接点の多様化・充実化や自治体の情報システムの標準化・共通化など自治体におけるDXを推進するためには、効果的な推進体制の構築が不可欠であり、そこで、各施策の実施主体である主管課を支援するために、施策立案・進行管理に関して情報推進課が技術的助言や情報提供、必要に応じ共同実施を行い、DX推進に係る部局横断的な業務については、CDOを本部長としたDX推進本部（各課長により構成）にて決定している。また、庁内各課においては、DX推進委員を任命し、DX人材の育成も行っている。全庁的なDX人材の増加により、情報リテラシーの強化が図られている。DX推進本部からのトップダウンの指令と職員育成による実務者からのボトムアップ（取組）の双方からDXを進められていた。

勿論、ペーパーレスをはじめ、電子化、また、様々な手続きをDXででき

るようにしている。また、職員も使えるようキントーンを導入し、アプリ作りなどを行っている。

フリーアドレス導入に向けては、2024 年 9 月に情報推進課においてトライアルとしてフリーアドレスを導入。また、2029 年度の新庁舎移転に向けてこの仕組みを全庁に導入して庁舎スペースの有効活用をめざしていく予定。

DX 委員を各課から募集したら、若手から 8 人も手を上げてくれた。月 2 回ミーティングしている。キントーンや生成 Ai などの具体的な使い方のセミナーをし、発表会を行い、投票方式でコンテストをした。町長はじめ、SoftBank からも来てレクチャーしたとのこと。

議会も完全ペーパーレス、スマートディスカッションを活用し、タブレットのみの持ち込みとしている。会議にしても、完全ペーパーレス、大型モニターも活用し、浸透している。議会が率先してペーパーレスを進め、行政側が追っている流れとなっている。

今後の課題については

1. デジタル人材の育成

職員の知識の向上も大切ですが、「DX を自分事として進めていく」という意識の醸成

2. 予算とリソースの確保

予算の確保と合わせてそれを執行するリソースの確保

3. 住民の理解と協力

新しいサービスやシステムの利用に対する抵抗感や不安(デジタルデバイド)の解消

⑧ ⑨小牧市としても、山下市長肝煎りで DX 化に力を入れており、フリーアドレス化をはじめ、導入推進に向け大変勉強になった。やはり専門家の知識が必要な為、外部より有能な人材を派遣してもらい官民で取り組み、コーディネートしてもらうことで職員の力も発揮されやすくなり、DX が現実的に運営される事がポイントだ。

① 5月23日金曜日 群馬県大泉町

② 大泉町役場にて
外国人居住地域視察

③ 村山俊明町長、企画部多文化協働課武藤晴美課長、企画部多文化協働課
木月健太住民活動支援センター所長

④ 多文化共生について

⑤ 大泉町は群馬県内製造品出荷額順位で4位の企業のまちである。そのような特徴もあり、外国人も多く、ブラジル人が1位、ついで、ペルー人、ネパール人、ベトナム人が在住しており、小牧市と大変似た市風であることから、多文化共生において先進地である大泉町を選定した。

⑥ ⑦ 町内各所の表記が、各国の言語で表記されており、駅も緑と黄色の看板にするなど、1番居住者の多いブラジルの国旗を意識している。また外国人スーパーなども多数あり、外国人にとって住みやすい町となっている。

大事にしているのが、正しい情報を正しく伝え正しく理解してもらうことで、情報の間違い、解釈、足りないなどでトラブルになる。また、外国人も困ってしまうため、きめ細やかな翻訳を各施設や明記に気をつけ、お互いが正しく理解できるように工夫されている。

本庁舎に10人翻訳者をおき、多言語で各国の翻訳資料も毎月配布している。多文化交流センターもつくり、相談場所を設けている。

外国人キーパーソンと連携している。キーパーソンとは、行政と外国人との橋渡しをしてくれる方。外国人スーパー店長やボランティア団体、中高生など。外国人が集まる場所へ職員が出向いて、交流し連携を深めている。

また、防災フェアで、外国人ボランティア団体も参加してもらっている。ブラジル人の外国人学校もあり、町民として様々案内したりしている。

町立小中学校において、日本語教室も週3回している。

国際交流でハロウィンイベントをし、町長も参加して交流している。

小学校中学校7校、2919人中、外国籍が668人、26カ国22.9%いる。

健康保険年金の未加入、未納は、年金を知らない48.5%、未加入32.9%、

介護も言葉が通じない、必要サービスが受けられないことが、課題である。

⑧⑨町長より、団体や飲み屋や、とにかく外国人の方が集まるところに飛び込んで行き、悩みを聞く、解決してあげることが大事。こちらが動けば感謝されるし、向こうも協力してくれる。職員もわからないなら役場に来てくださいではなく、こちらから、外国人のコミュニティへ飛びこみ、お伺いすることで、本当の悩み事、問題点がわかり、相互理解できる。防災フェアなどにも、外国人団体などにも、参加呼びかけし、参加してもらっていることは大変良いと思った。小牧市では外国人は参加していないと思うため、参加を実現させたい。

① 5 月 23 日 金曜日 群馬県大泉町

② 大泉町役場にて

③ 山口将議長、都市建設部環境整備課笠原弘美課長、議会事務局村田浩二局長

④ マイニャンバー制度について

⑤ 群馬県に群馬県動物愛護条例ができたことで、飼い猫は屋内飼育を推進し、飼育環境向上と放し飼いや野良猫糞尿被害対策もあり、猫も飼い主も猫を飼ってない方も幸せに暮らせる町になるために作られた。小牧市においても、犬猫殺処分 0 に向けた様々な政策が充実してきており、日本初の取り組みをしている大泉町で更なる推進策を学びたく選定した。

⑥ ⑦ 令和 7 年 2 月 2 日猫の日を事業開始日とした。登録料無料。

登録制度を設け、飼い猫愛猫の登録と共に、四つの愛猫へのお約束宣言に署名してもらい、愛猫の写真を加工した缶バッジを交付する。現在 165 頭登録。歳出も缶バッジメーカー 6 万、資材で 45mm500 個 13000 円と安価。課題は登録数を増やすこと。

白猫プロジェクトに、マイニャンバー制度 PR 大使をやってもらっている。災害時はまだ対応できていないが、いずれ連動させたい。

平成 28 年からは、ワンとニャンダフル計画をした。殺処分が増えた問題があり、対策に力を入れた。

余談ですが、浜松では民間でマイニャンバーカードも作っている。が 2000 円かかり、バッジの方が予算的によいとのこと。

⑨ ⑨マイニャンバー制度は予算も大変安価で、気軽に推進できる良い制度。

市民がより動物愛護に親しみが増し、野良猫を減らす、糞害を減らすなど良いことばかりだ。小牧市においても活用できたらと思う。